

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500316		
法人名	社会福祉法人 笠松会		
事業所名	グループホーム 笠松の郷		
所在地	福岡県宮若市上有木320番地1		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果確定日	平成27年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年8月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ご家族と一緒に認知症のご本人を支えるということを継続している。ご本人が安心して安全に生活できるよう支援する事に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム笠松の郷」は医療法人を母体とする2ユニット事業所で、開設当初は1ユニットだったが、H25年に1ユニット増設された。建物も新設され、屋上もある4階建てになり、GHはその1階で、ケアハウスとも併設されている。母体病院は地域でも歴史が古く、GH開設にあたっては地域の方が住み慣れた土地に自分のお金で住み続けられるようにと、家賃も非常に安価に設定しており、新造された今でもその設定は変えていない。病院が母体であることから、医療連携も手厚く、毎週の訪問看護による健康管理、通院や訪問診療もすぐに受けることができる。法人系列事業所との合同研修や、職員技能向上にも取り組んでおり、最近ではアセッサー認定も受けている。調査時には入居者も同席し、いつも和やかな雰囲気でご過ごされ、今後も地域を支える事業所としての活躍が大いに期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング、申し送り、また連絡ノート等で情報を共有できるようにしている。	「地域の中で生きる心地よさが生活の心地よさになる」事を開設時から事業所の独自理念として掲げている。理念と共に目標や方針も定めており、ミーティングでの話し合いや個人の目標設定などで実践にもつなげている。H25のユニット新設時には新しい職員とも話し合いの場もたれ、見直しも行った。	掲示や目標などで共有を進めているが、さらに職員に対しての浸透を深めていくために、職員同士で理念を振り返る場を持ったり、理念を具体的にした目標を定めたり、会議や申し送りででの唱和を検討したりされていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域の方が採れたての野菜を売りに来られる。近くのお地蔵さんにお参りに行ったりしている。	元々、法人としての地域との結びつきが強く、近隣に民家は少ないが協力的である。町内の盆踊りでは事業所前にも訪問してもらっており、近くのお地蔵さん参りで交流もある。以前は事業所での餅つきなどに招くこともあったが、今は敬老会のみになっている。管理者がキャラバンメイトにも関わり、老人会での講演や事業所連絡会での周知活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会等の要請があれば、講演をしている。家族からの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議で近況報告を行い意見等を頂いている。	老人会、地域包括、民生委員、知見者、駐在所などから参加があり、家族参加は6名程度、ホールで開催することで入居者の参加もある。9月には敬老会と同日で行うことでその際は家族もほぼ全員に参加してもらっている。スライドを使って写真付きで日頃の様子を報告し、警察から詐欺の啓発があったりと情報提供や意見も活発である。議事録も要望があれば自由に閲覧できるようにもしている。	閲覧用の議事録にも、当日使用したスライド資料を綴じこむことで、会議の内容や日頃の様子を見られるようにされてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、GHみやわかの勉強会に市の担当者も参加されている。運営推進会議にも参加して頂いている。	毎月の事業所連絡会には市の担当者も参加してもらい、その際に意見や情報を頂くこともある。キャラバンメイト活動に管理者が協力しており、市の依頼で年に何度かは講師としても活動している。介護申請時や何か質問などがあつた時も窓口へ訪問して聞いており、担当も顔なじみになって相互に協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を止めないように心がけている。夜間帯以外は施錠していない。	施設玄関、ユニット入口とも施錠なく、夜間以外は自由に出入りができる。出られる際には見守り、付き添いで対応し、無理には引き止めず気のすむようにしてもらっている。夜間の転落防止のため四点柵の利用があるが、同意の上見直しも行っている。研修も行っており、スピーチロック、ドラッグロックなどを学んで、拘束行為につながらないように気を付けてケアを行っている。	

H27自己・外部評価表(GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で虐待にならない様、話し合っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に出来るだけ参加するようにしている。参加した職員は、他の職員に伝達するようにしている。運営推進会議の議題にもしている。	以前は成年後見制度を使っている方がいたが、今はおらず、利用が検討される方もいない。事業者連絡会での年間研修の中で制度について学ぶ機会を設け、職員も一般的な理解を進めている。必要時には管理者が中心になって市などの関係機関と対応して行うようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、了解の書類を作成している。入居前に、見学や体験入居を出来るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな事でも話して頂くようお願いしている。ケアプラン更新の説明時にも要望等を聞くようにしている。またその内容をケアプランに反映させるようにしている。	9月の敬老会時に家族のみでの家族会を主導になってしてもらい、上がった意見も後から聞き取って改善につなげている。以前は少なかったが最近では意見をいただくことも多く、積極的な取り組みに行かされている。意見や改善結果は掲示して報告もしており、毎月発行する「笠松の郷だより」で日頃の様子も伝えている。	頂いた意見の取り組みや改善を行っているので、運営推進会議や、お便りなどでも取り組みを伝えてはどうか。また、法人によるアンケートなどによっても日頃上がりづらい意見を引き出す取り組みがなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一方的な指示にならないよう話し合いの場を作るようにしている。	毎月、ユニット合同でのミーティングがあり、毎回時間をかけてじっくりと全体の入居者の情報も共有している。ケアや行事計画に関しても話し合い、日頃からも管理者とコミュニケーションをとって提案もなされ、改善の取り組みも積極的である。年に1, 2回個別面談の機会もあり、目標管理や相談などもされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その時々により、勤務時間を調整したり、希望の休みが取れるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	持っている能力を生かし成長できるよう、本人の意欲を重視している。	正社員が多く、男女で30～60歳代の職員がおり、希望されれば定年延長にも応じている。研修案内もあり、ケアハウスとの合同でレク、設備などの委員会活動も行っている。休憩時間や場所も確保され、職員同士がコミュニケーションを取りながら業務にあたる。技能向上に向けた取り組みも始まり、レベル認定のアセッサー講習も受けて今後の活動が計画されている。	

H27自己・外部評価表(GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人として、人権を守るとはどういうことか考える場として、GHみやわかの研修に参加し学ぶようにしている。	昨年は事業者連絡会の中で、人権問題に関する研修が行われた。直近では実践者研修で学んだ内容の伝達も行い、資料回覧などで人権学習を進めている。	事業所としての人権教育や啓発活動として、県や市の人権関連団体を活用して、講師派遣や資料貸し出しを受けたり、外部研修への参加を検討されてもいいのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に順番で参加できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会やGHみやわかに入会している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中で入居者の行動、態度、顔つきなどの変化に気付くよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちを理解し、あゆみよりながら方向修正を試みている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に出来るだけ情報を集め、まず必要としている支援に注目している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず、ひとりの人生の先輩として敬う姿勢を持ち接するよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が良い関係を保てるように心がけている。		

H27自己・外部評価表 (GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問しやすい場所をつくるよう努めている。	個別ケアによって、県外にある入居者の故郷に行ったり、帰宅願望のある方を自宅にお連れすることもあった。馴染みの美容室や歯科医に行く方もおり、家族に協力してもらい支援もしている。家族の面会も多く、協力的で一時帰宅や外出、外泊などをする方もいるほか、知人や友人の来訪もあり、写真によって家族とも情報を共有している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが発生しないよう、その場で配慮している。また、孤立しないよう心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があればいつでも相談をうけるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に確認するようにしている。ご家族の思いや状況等を聞くようにしている。	入居時に関係機関からの情報提供を受けており、基本的にはセンター方式の一部を活用して、家族にも直接情報を記入してもらっている。独自のアセスメントシートもあり、6か月での見直しも行う。計画作成担当が主に携わり、面会時など家族の意向も聞き取りながら、本人の意見を尊重して本人本位のケアに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式、生活暦等を参考にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で様子を聞き、表情等、小さな変化に気をつけるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを実施し、ケアカンファレンスを行っている。モニタリングも毎月行っている。3ヶ月毎のケアプラン更新に、ご家族の意見を聞いている。	プラン作成はケアマネが行い、本人のできることを見極めて現実的な目標をプランにあげている。毎月のミーティング時に全員分の問題を挙げてカンファレンスを行い、情報を共有している。以前は毎月行っていたが、電子カルテに変更後は3か月ごとにするようになった。モニタリングは担当職員が行い、プランの見直し時に担当者会議を開き、必要時には訪問看護師にも参加してもらっている。	

H27自己・外部評価表(GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、申し送りをし介護記録記入を行い、必要な情報を共有するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月毎にケアプラン更新を行っている。その都度必要なニーズに対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物やドライブに、一緒に出かけるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	有吉病院から訪問看護が週に一回行われている。特変時には有吉病院を受診している。	希望すれば外部のかかりつけ医を継続できるが、母体法人の病院をかかりつけにする方が多い。同一敷地内にあるため、何か異常があった際もすぐに通院し、支援を仰ぐことができる。他科受診は基本は家族介助だが、事業所からも支援している。フットケアの先生の訪問が毎月あり、希望者には爪の処置も定期的に行ってもらっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に伝え、相談し指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の意見を聞き、ご家族を交えて話し合いをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族、職員で十分に話し合い、チームを組んで支援している。	事業所での看取りを希望される方には指針を説明し、契約書を交わしており、重度化の際には主治医同伴で意思を確認してターミナルケアを行っている。今までにも何名か看取っており、現在も対応中である。常時医療を必要としない限りできるだけ支援を行っていく考えで法人間で協力しながら対応している。職員の思いも聞き取り、毎回看取りのたびに振り返り、話し合い、経験を積んできており、県協議会での実践報告ではその取り組みに大きな評価をいただいた。	

H27自己・外部評価表 (GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、リビングに備えており、いつでも見て確認できるようにしている。内外の勉強会に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	訓練は併設施設と合同で、2回とも夜間想定で行い、内1回は消防署が立ち合い、総合訓練を行っている。非常時には地域の消防団の支援をもらう約束を交わしており、連絡網にも入ってもらっている。母体病院が行う訓練にも参加しており協力体制を作っている。備蓄物は厨房で管理している。以前は運営推進会議と同日で行い、家族にも参加してもらっていた。	以前されていたように、運営推進会議と同日に行って家族にも参加してもらったり、取り組みの周知や協力体制の確保を検討されてはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない声かけ、言葉使いに注意している。	入居者の自尊心を尊重した呼びかけを心掛け、相手や職員との関係で呼称を変えたり、相手にとって心地の良い関係を目指している。運営推進会議、おたよりなどの写真利用は口頭で許可をもらい、同意を得たものだけに留めている。法人の全体研修などで接遇研修も行っている。	親しみやすさと馴れ馴れしさを混同しないような、声掛けやケアなどのスキルアップがさらに目指されていくことに期待したい。また、写真利用の同意は書面で取り交わされていくことが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場面に応じた声かけを行い、本人の思いを尊重している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた起床時間や食事を大切にしている。食事は一定時間置きしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を心がけている。ご家族に衣替えをお願いしている。月1回、ヘアカット、フットケアを利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、職員も一緒に同じ物を食べるようにしている。	同一建物内にある厨房を業者に委託し、メニュー作成、調理、配食がされており、毎月の給食会議で要望なども伝えている。入居者も配下膳や食器洗いを手伝うことがあり、調理レクを行うこともある。おやつは事業所自由に決めて、買い物に行くこともある。パン食など個別対応も行い、誕生日、季節の行事食をしたり、敬老会では職員総出の手作り料理でバイキングを楽しんでいる。	

H27自己・外部評価表 (GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	寒天ジュース等を作り飲んで頂いている。食事量水分量を記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回、訪問歯科を利用している。歯磨き、義歯の洗浄等、一人ひとりに応じたケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた介助を行っている。	全員分の排泄チェック表があり、自立した方にはあとからの確認で管理し、自分でできることは極力自分でしてもらっている。状態を見て、パットの種類を変えたり、リハパン、紙おむつなどの提案をしている。トイレ排泄を基本とし、夜間でも行ける方はトイレを使用し、時にはPTイレでも対応している。乳酸菌飲料などで、自然な便通につながるよう、普段から配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便につながるよう努めている。主治医と相談し、服薬の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある時は、出来るだけ入浴して頂くようにしている。拒否が強い方も週2回は入浴して頂くよう努めている。気分を変えるために市内の温泉へ行くこともある。	基本は週2回だが、希望があれば毎日でも入浴できる。ユニットで一般浴槽と機械浴に分かれており、入居者の状態に合わせてそれぞれを使用している。お湯はため流して清潔を保ち、湯温も好みに調節している。入浴の順番や時間もその日の希望で柔軟に対応し、拒まれる方もしない温泉や隣接施設の大浴場などで環境を変えながら働きかけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に過ごされている。職員もあまり過度に干渉しないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別処方箋ファイルを確認するようになっている。変更があった場合は、連絡ノートに記入し、申し送りで情報を共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、テーブルを拭いていただいたり等、手伝って頂いている。月2回三味線の演奏会を催している。		

H27自己・外部評価表(GH笠松の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブで出かけられるようにしている。季節を感じられる場所へ行くよう努めている。	個別ケアによる外出で、県外や海の見えるレストランに行ったりしており、非常に喜ばれた。全体外出も年間で計画立てて、季節の花見や寺社仏閣など毎月何らかの外出レクを行っている。敷地も広く、自然に囲まれており、周囲の散歩や系列病院でのお茶休憩など、その日の気分で外出と季節折々の風景を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり別々にお金を預かり、出納帳に記入している。外出時におやつを買ったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は職員が対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾るようにしている。	屋上には龍神様が祀られお参りに行く方もいる。全体的に和のテイストが取り入れられ、小上がりの茶室で寛いだり、落ち着いたある佇まいがある。両ユニットの中心にキッチンが共通で配置され、普段はパーテーションで区切られるが行き来もしやすい。建物は新しくなったが家庭的な雰囲気を大事にし、各所の休憩スペースや手作りの作品、小物などが飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように、テーブル、イス、ソファを各場所に置いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ってきてもらうよう、ご家族にお願いしている。写真等も飾るようにしている。	ベッドのみ備え付けで、たんすなどの持ち込みも自由である。それぞれの入居者に合わせた部屋作りがなされており、季節ものの入れ替えは家族に協力してもらってすっきりとした収納にしている。周囲も開けているため採光もよく、窓外には緑が望め季節を感じ取れ、風通しもよかった。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所をわかりやすく、トイレではなく「便所」と表示している。各居室に、ひらがなで書かれた表札をかけている。		